

■経緯

平成30年西日本豪雨の際、倉敷市真備地区では、浸水想定区域外に開設された指定緊急避難場所（3か所）へ車両を使用した避難者が殺到し、近隣道路が渋滞、最終的には当該施設への避難が不可能な状況となった。この反省から、地域住民とのワークショップや研修会、避難訓練を通して、災害時の課題を洗い出し、ハード・ソフト両面から官民ができることを検討。令和4年度には、車両での避難を前提とした「避難地・避難路」の整備を行った。

■整備及び運用のポイント

- ・車両がすれ違うため及び大型車両（災害支援車両）の通行に十分な幅員の確保
- ・早めの避難や気軽な避難を促すことを可能とするため、当日及び翌日以降の施設運営（学校運営）への支障を極力低減
- ・地域住民の避難計画とのすり合わせ（整備前の協議、整備後の研修や訓練実施）

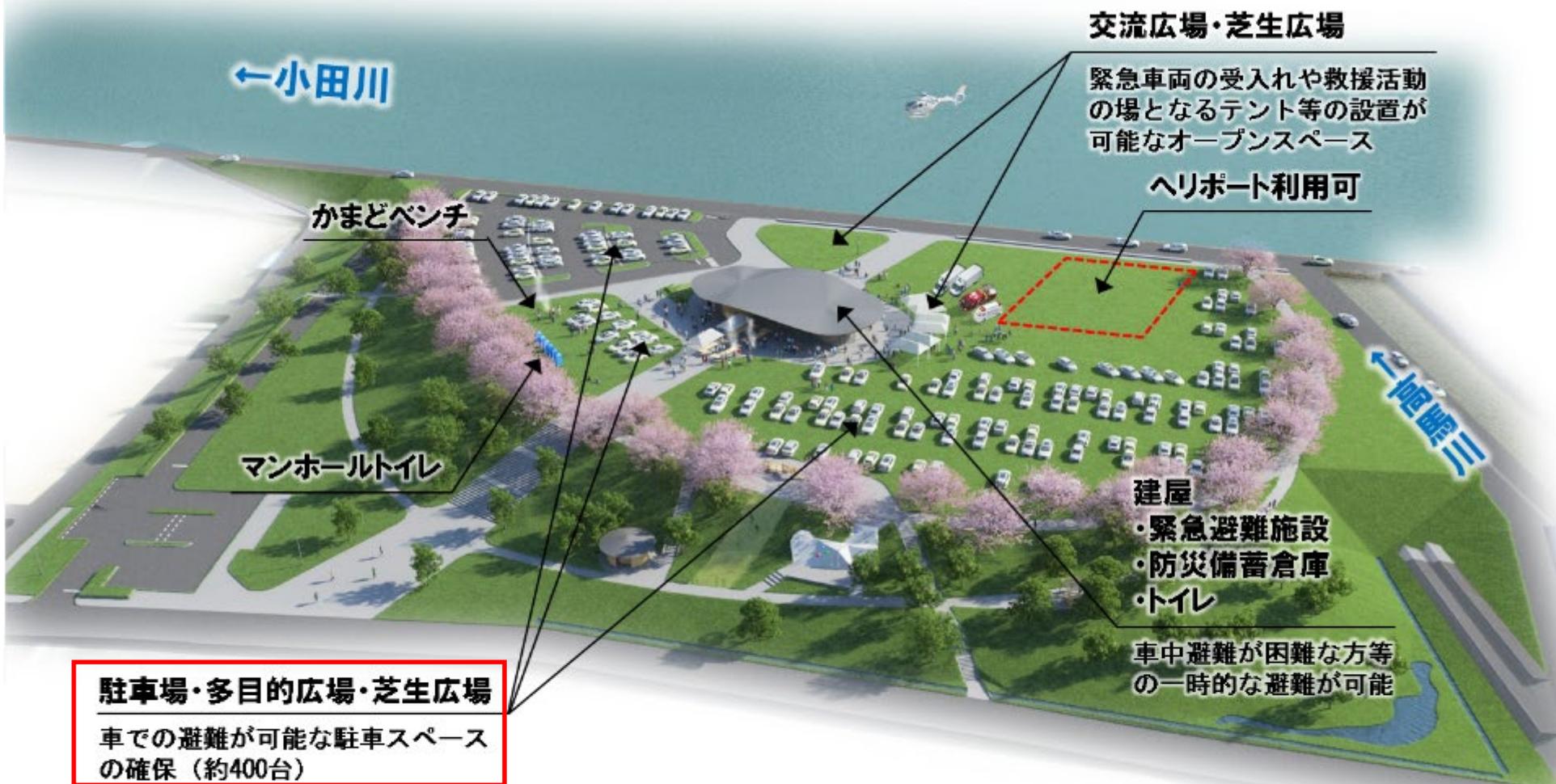


←
岡田地区での
住民ワークショップの様子
(2019/8/31～11/24)



→
整備終了後
地域イベントでの運用説明会
及び現地見学会の様子
(2023/6/25)





※完成イメージのため、今後の工事により、変更することがあります。